

# 坂下紀彦教授退職記念号発刊によせて

経営学部長 北 林 雅 志

『札幌学院大学経営論集』第6号を坂下紀彦教授退職記念号として発刊いたします。坂下先生は1970年本学の前身である札幌短期大学に25歳という若さで助手として着任されました。その後、札幌短期大学が札幌商科大学、さらに現在の札幌学院大学へと発展を遂げる中、先生も専任講師、助教授を経て教授へと昇格されました。まさに本学の歴史とともに歩まれ、研究者、教育者として本学の発展に大いなる貢献をされてこられました。

先生は北海道空知郡砂川町でお生まれになり、中央大学商学部会計学科を卒業された後、同じく中央大学大学院商学研究科修士課程に進学され、会計学研究者としての道を歩み始められました。先生の御専門である会計学研究では、企業の資産をどのように評価するかを中心的な研究課題とされてこられました。近年日本企業の資産の割合が金融資産へと大きく変貌する中、その資産をいかに評価するべきかという論点、わが国のみならず、国際的にも「国際会計基準」策定にかかわる大きな論点として取り上げられています。まさに会計学の本領が問われる領域を、一貫して追求されてこられたと言えるでしょう。

また先生は教育についても大変御熱心で、学生の視点に立った教科書の執筆にも多くの時間を割かれました。このような教科書に導かれ、先生のゼミに参加した学生や講義を受けた学生の中から、公認会計士、税理士など会計専門職に就いた人たちも多くいます。また道内各地の高等学校で商業教育を担う教員も数多く育ててこられました。このような会計教育の実践活動を通して、先生は2009年会計教育そのものを専門的に研究する学会である「日本会計教育学会」の創設に発起人として参加され、現在も理事として活動されています。北海道の地域経済・社会の発展を担う人材の育成を使命とする本学の教育を、身を持って実践されてこられました。

このように研究・教育に熱心に取り組まれる一方、本学経営学部（その前身である商学部）の運営についても教務委員長などの重責に就かれ、労をいとわず多くの時間を割いていただきました。2009年商学部から経営学部へと改組するにあたり、有益なご助言を多くいただき、新しいカリキュラムを作成することができました。改めて感謝申し上げます。

本記念号には、長年にわたり坂下先生の共同研究のお仲間である岐阜経済大学経営学部教授の石坂信一郎先生に御執筆の依頼をいたしました。大変お忙しい中、御快諾いただきましたこと心より感謝申し上げます。

末筆となりますが、坂下先生の札幌学院大学経営学部へのこれまでの御貢献に深く感謝いたしますと同時に、これからも経営学部の発展に向けたご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。坂下先生のますますのご活躍を祈念いたしまして、本記念号の挨拶とさせていただきます。